

あさくみの足戸 (現地説明会資料)

平成30年 11月18日発行

発行：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

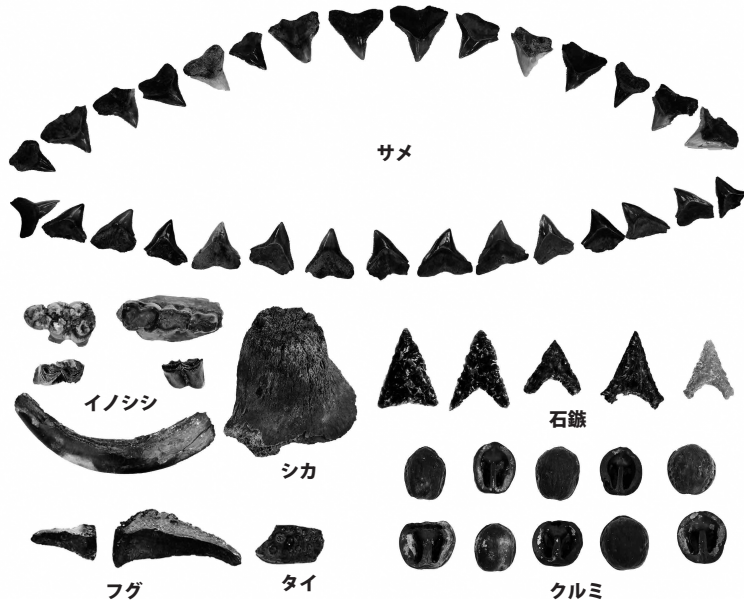
シコノ谷遺跡監督員詰所 TEL (0852) 39-0022

シコノ谷遺跡 A 区

シコノ谷遺跡は、6月からA区、B区の2箇所が発掘調査を行いました。A区では、調査区の中ほどに人頭大の大きさの礫が堆積していました。北側の谷から洪水等により土砂が押し流され、大橋川に流れ込んだ場所と思われます。礫の上からは縄文時代晩期(約2600年前)の土器、黒曜石の石鏃が出土しています。出土した木の年代をC14(カーボン14)という化学分析により縄文時代後期(今から約3500年前)という年代が確認されました。



シコノ谷遺跡 空撮



シコノ谷遺跡 出土遺物

シコノ谷遺跡の出土遺物

出土した土器はいずれも土石流により谷奥から押し流されたもので、縄文時代前期(約7000年前)から縄文時代晩期の長期間の土器が確認されました。また縄文時代の上の層からは稲作を始めた弥生時代、古墳時代、出雲国風土記の書かれた奈良時代などの土器や木器も出土し、この場所で長い間人々が生活していた様子がわかりました。

シコノ谷遺跡 B 区

B区でも同様に礫層が地表下約3mの基盤の上に堆積しています。礫層を部分的に水洗いしたところ、縄文土器、石鏃とともにサメの歯が156本も出土しました。県内の遺跡でこれだけの数が見つかるのは初めてのことです。当時の人が大橋川から中海にかけて漁をしていたもので、猪の牙、シカの骨、クルミの殻なども見つかり、山での食料獲得の様子もうかがえます。



シコノ谷遺跡 出土遺物 (左は弥生土器 右2点は縄文土器)